

後期第2回のレポートでは、東南アジアと南アジアについて学ぶ。両地域ともアジア大陸から突き出したふたつの大きな半島（インドシナ半島、インド半島）を中心とした地域で、発展途上国が集まっている。かつてはインドシナ半島ではタイを除くほとんどの国々がヨーロッパの植民地、インドを中心とした南アジアはイギリスの植民地であった。独立後も欧米諸国への原料や資源の供給地という植民地時代の経済構造をなかなか変えることができず、貧困にあえぐ国々が多かった。しかし近年は少しずつ工業化が進み、なかでもインドはBRICS、シンガポールはアジアNIEsとよばれる国々のひとつであり、経済成長が著しい。他の国々も工業化が大きく進みつつある。またこれらの地域は中国の文化圏とインドの文化圏の間に位置し、文化的にも多様で、様々な文化や宗教がみられる。

「3節 ASEAN諸国 -項目ごとに整理して考察」

【1】

(1)教科書P245を参照、学習書P198を参考

- ・この地域は地学的に安定した安定陸塊であるインドシナ半島の中央部を除けば、ほとんどが変動帯であり地震や火山も多い。
- ・マレー半島の南端付近、スマトラ島、ジャワ島のほぼ中央部を赤道が通っており、東南アジアのほとんどの地域が熱帯である。

(2)地図帳P13～14、31～32を参照

- ・赤道の位置を知っておくこと。

【2】教科書P246～247を参照、学習書P200～203を参考

- ・⑤ASEANの日本語名称もぜひ知っておこう。
- ・⑦については、教科書P247欄外の「用語」を参照。

【3】

(1)～(2)教科書P248～249を参照、学習書P199を参考

- ・東南アジアは世界的にみて米の大生産地であるが、この地域の米は私たちが食べる日本の米と品種が違う。東南アジアの米はインディカ種とよばれ、粒が細長く粘り気が少ない。一方日本や朝鮮半島、中国北部で栽培される米はジャポニカ種とよばれ、粒が短く粘りが多い。

【4】

(1)教科書P250～251を参照、学習書P201を参考

- ・④については、教科書P251欄外の「用語」を参照。

(2)教科書P250を参照、学習書P202～203参考

- ・両国の経済の変化を輸出品の変化から考えてみよう。

「4節 インド -項目ごとに整理して考察」

【6】教科書P257～258を参照、学習書P149～150を参考

(1)教科書P255を参照、学習書P204を参考

(2)教科書P256～257を参照、学習書P208～209を参考

- ・インドの工業が大きく成長している理由を考えてみよう。

(3)教科書P258～259を参照、学習書P205を参考

- ・⑬、⑭については、教科書P259欄外の「用語」を参照

(4)(5)(6)教科書P260～261を参照、学習書P206を参考

- ・「カースト制」については、教科書P260欄外の「用語」を参照

【7】P256の図3「自動車の生産台数」、P257の図6「ICT産業の輸出額」、p259の図7「米の生産量」を参照

【8】ネットで東南アジア（南アジアでも可）のリゾートや世界遺産について調べよう。（太い破線を越えること。）

